

介護のなかま

2011年10月25日

【発行】生協労連

介護部会事務局

NO. 39

電話：03-3408-0067

fax：03-3408-8955

メール：qyg03057@nifty.ne.jp

介護労働者に働く誇りと喜びを

「第9回介護にはたらく仲間の全国学習交流集会」へ全国から150人以上が集う

10月16日、都内で、第9回介護にはたらく仲間の全国学習交流集会が開催され、全国から150人を超える介護・福祉現場で働くなかまが参加しました。

集会では、最初に実行委員会からの基調報告がおこなわれました。基調報告では、介護保険施行後の介護地獄の実態、依然深刻な介護・福祉で働く労働者の雇用と処遇の実態、政府がすすめる社会保障と税の一体改革の危険な内容、「改正」介護保険法の目玉の一つである地位包括ケアの欠陥などについて明らかにし、当面する私たちのとりくみについて提起しました。

当面のとりくみでは、政府に対する重点要求として、①介護保険財政に対する公費負担を増やすこと、②保険料・利用料負担を引き上げないこと、③自治体が特養ホームを増設するための思い切った追加の財源措置を行うこと、④「介護職員処遇改善交付金」を恒常的な制度とするとともに、交付金額を大幅に引き上げ、対象職種を拡大することなどを提起しました。

同時に、自治体にたいするとりくみが重要だとして、市町村がすすめる「第5期介護保険事業計画（2012-14年）」「地域福祉計画」にたいし、声をあげ、要望書を提出していくなど、制度改善の運動をすすめていくことを提起しました。

基調報告の後、東京・山谷地区にあるきぼうのいえの施設長である山本雅基さんによる記念講演。きぼうのいえは東京の日雇い労働者の街、通称山谷地区にある、身寄りのない人、行き場がない人のための在宅ホスピスケア施設です。

今こそ地域共同体、家族共同体を

山本さんはホームレスのためにホスピスを建てたいと考え、看護師の



奥さんとともに活動を開始、貯金を元手に銀行から資金を借り、数多くのボランティアの後援を得て、路上生活者など身寄りがなく、深刻な病気を患っている人、余命が限られた人などを受け入れる在宅ホスピス対応型集合住宅“きぼうのいえ”を開設しました。

施設に住んでいる人のほとんどはホームレスの人たち、中・長期的に余命宣告を受けた人たちです。施設の目的は、①身体ケア、精神的ケア、スピリチュアルケア、看取り、葬送・供養です。社会的に行き場がなく、身寄りのない人たちの人生の終末期をできるだけナチュラルに看取ります。

山本さんは、今の社会保障制度や介護保険制度のなかで失ってきた地域共同体、家族共同体の理念とその実現のとりくみを優しい言葉で語りました。現在の日本の政治や社会制度への痛烈な批判でもあり、一つ

介護・福祉ではたらくみなさんにコピーして配布をお願いします

の新しい試みへの挑戦へのお話でした。

集会はその後、集会アピール採択し、午後からは、分科会やしゃべりばに分かれて交流しました。

最後に、お茶の水駅前で、宣伝行動をおこない、介護保険制度の改善、介護労働者の処遇の改善を市民に訴えました。



2009年の下期からはじまった介護処遇改善交付金は、2012年3月末をもって終了となります。私たちは、介護・福祉で働く労働者の処遇の改善は依然として改善されていないとして、政府・厚生労働省に交付金の継続を求めてきていますが、審議会のなかで議論中として態度を明らかにしていません。10月17日に介護集会実行委員会でおこなった厚生労働省交渉のなかでも同様の回答でした。

厚労省のなかでの本音としては、震災復興のためにお金がない（継続のためには年間1,900億円の財源が必要）として、打ち切りを考えています。

一方、介護給付分科会のなかでは、介護報酬のなかに丸めるとの意見もありますが、報酬のなかに含まれると、利用料に跳ね返る上に、賃金に回されるという保障は全くありません。

政府・審議会へ 要請はがきの集中を

生協労連は介護・福祉で働くなかまの処遇の改善をすすめていくために、政府・厚生労働省にたいし、引きつづき介護処遇改善金の支給を求めています。その具体化として、首相、厚生労働大臣、財務大臣、そして介護給付審議会会長への「はがき要請」にとりくみます。

「介護処遇交付金の継続を」の声を職場

から政府に求めていきましょう。介護・福祉で働くなかまの処遇の抜本改善をせまらしましょう。

介護事業を展開している職場を中心に、1,000枚の要請はがきを送付します。職場からの一言を書いて、ポストに投函をお願いします。

<p>100-8916</p> <p>厚生労働大臣 小宮山 洋子様</p> <p>東京都千代田区霞が関1-2-2</p> <p>全国生協労働組合連合会</p>	<p>私たちは、以下のことを要請します。</p> <p>介護職員改善交付金事業は、</p> <ol style="list-style-type: none">1. 100%国費負担など現行の制度のままで継続してください。2. 支給対象は介護施設・事業所にはたらくすべての職目に拡大してください。 <p>わたしのひとこと</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <p>住 所 _____</p> <p>氏 名 _____</p>
---	---

日本生協連と懇談を実施

生協労連介護部会世話人会は、10月15日（土）に日本生協連福祉事業推進部の山際部長と、①全国の福祉事業の現状、②2012年の報酬改定や制度改定問題について懇談をおこないました。

山際部長は、日本生協連では、厚労省がすすめる報酬改定や制度改定実施の具体化にあたっては、生協陣営としても意見の取りまとめに入っているとし、11月の推進委員会で確定し、現在おこなわれている給付費分科会への民間部門の意見反映と合わせて、厚生労働省と意見交換をすると述べました。また、必要によって政党への要請もおこなっていくとしました。

世話人からは、利用者が増えている背景問題、生協における今後の事業展開、さらには介護報酬や地域包括ケア、コープあいちでおこなっている24時間対応サービスのモデル事業などにたいする日本生協連の考え方についての質問などがあり、1時間以上にわたって懇談をおこないました。